

営農情報

■病虫害防除の徹底について

本年は、稲の斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予想ですので、雑草での増殖抑制のため、畦畔・農道等の継続的な除草対策を徹底しましょう。果樹では、もものせん孔細菌病がやや多い予想ですので、発病部位（果実、葉等）は見つけ次第摘み取り、適切に処分するとともに、薬剤散布を徹底しましょう。

作物名	病虫害	発生量
稲	斑点米カメムシ類	やや多い
りんご	黒星病	平年並
もも	せん孔細菌病	やや多い
西洋なし	輪紋病	やや多い
果樹全般	カメムシ類	平年並
	ナシヒメシンクイ	平年並

■水田管理のポイント

○出穂・開花期～穂揃期

最も稲が水分を必要とする時期です。

湛水状態にして、稲に十分な水分補給をしましょう（花水）

○穂揃期後

胴割粒や白未熟粒は出穂後の高温により発生しやすくなります。

・間断かん水で根の活力を維持しながら、水を切らさないようにしましょう。

・特に高温が続く場合、日中湛水、夜間落水により稲株周辺の温度（特に夜間の温度）を下げ、稲体の消耗を抑えましょう。

・強風やフェーン現象（高温・乾燥）のときは、一時的に深水にして稲を保護しましょう。

○斑点米カメムシ注意報発令

薬剤による防除は出穂状況を確認し、穂揃期（8月上旬）及び穂揃期7～10日後（8月中旬）の2回を基本とします。

出穂期前後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水田侵入を促し、斑点米の発生を助長するので**無人へり防除が終了する8月下旬（8月20日頃）まで行わない。**

水田内にイヌホタルイ等やノビエが多い圃場では、斑点米カメムシ類の水田内での発生が多くなるので注意が必要です。早期に除草対応お願い致します。

■果樹の夏期管理

果樹園の夏期管理は、大切な作業の一つです。園地の明るさや樹勢の強弱を中心に自分の園地を観察して、高品質栽培に向けた管理を実施しましょう。

○さくらんぼ

高温が続く場合は、来年の双子果花の発生が懸念されます。

かん水や樹上散水（スプリンクラー等）を高温時に行い、気温を低下させましょう。

夏場は、来年に向け充実した花芽を形成する大切な時期です。新梢が停止したことを確認し、極端に樹勢が強い樹を中心に夏季剪定を実施しましょう。

明るい園地を作ることは、来年の結実・果実肥大・着色に大きく影響します。暗い園地・枝が込み合っている園地については、大枝の剪定を実施しましょう。また、樹勢が強く、主枝が立っている樹については、誘引を行い、適正な樹体づくりに努めましょう。

○りんご・西洋なし

夏期の徒長枝整理は、病虫害防除効果（薬剤散布効果）の向上が期待されるほか、樹勢をコントロールすることができます。

樹勢が強いときは、強い徒長枝を切り、樹勢が弱いときは必要以上に徒長枝整理を行わないようにしましょう。また、つがる等の早生種は日焼けが心配されるので注意しましょう。

特に、樹勢が強い樹では、夏から秋にかけて、養分を送るポンプ役の「強い徒長枝」を置いておくと、必要以上に養分が送られて、着色不良や熟度の遅れが懸念されます。樹勢の強弱を判断して徒長枝管理を実施し、高品質生産に努めましょう。

ラ・フランスの徒長枝整理は、更新枝をやや多目に残すことで果実肥大や胴枯病対策も期待されますので、中程度の徒長枝を配置しておきましょう。